

日 時	令和 5 (2023) 年 9 月 29 日 (金) 14:00~16:30
場 所	幸田町教育委員会
出席者 (敬称略)	(仮称) 幸田町郷土博物館建設検討委員会 黒柳孝夫 (愛知大学 名誉教授) ※委員長 神谷 浩 (徳川美術館 副館長) 武村雅之 (名古屋大学教授) 岩下英司 (深溝小学校 校長) 池田和博 (幸田町教育長) 幸田町教育委員会 文化スポーツ課 菅沼秀浩 (教育部長) 志賀光浩 (スポーツ G 特命専門員) 神取龍生 (文化 G グループリーダー/主任主査) 稲垣彩乃 (文化グループ) 株式会社 丹青社 森 富弘 崎山幸子 久保はるか
目 的	第 2 回検討委員会

1 委員長挨拶

- ・ これまでの検討をより具体化するため、今回は基本構想案を事前にお送りした。率直なご意見をいただき、より良い博物館をつくる機会としたい。

2 (仮称) 幸田町郷土博物館基本構想について

- ・ (事務局) 資料説明

1. 全般について

- ・ (委員) 基本構想案としてはとてもうまくまとめられている。あとは形がどうなるかというところだろう。流れとして、理念からコンセプト、方針と展開されているが、方針はうまくまとめられている。
- ・ (委員) 提案であるが、方針の裏テーマとして、「また行きたくなる」という隠しテーマを位置づけてはどうか。「楽しいからもう一回」でも良いし、「何かひっかかること(宿題)を持って帰って答え合わせとしてまた行きたくなる」でも良いと思う。
- ・ (委員長) 「事業の目的」と「基本理念」は、同じような内容が表現を変えて書かれている。すっきりさせられると良い。
- ・ (委員) 基本構想案の中で幸田町の歴史等についてまとめられており、知らないことも多々あった。こういった情報を町民にしっかりと伝える場所として博物館ができれば非常に良いのではないか。
- ・ (委員) 事業の全体像について、「望ましい」方向の検討とともに、幸田町に合った適切な規模を模索することも重要であると考えている。町民の理解を得ながら進めることが重要である。
- ・ (委員) 実現するためのステップを検討する必要がある。例えば、延床面積 2,500 m²の根拠はから質問されるだろう。うまく折り合いをつけていく必要がある。記載された「遊び」「楽しみ」等も説明できるよう、今後具体的に検討する必要がある。町民目線で現実的に考える必要がある。

- ・（委員）今後は想定される予算感を念頭に検討すべきではないか。予算額の最大値を把握し、予算レベルごとに予算上の理由づけを明確化する必要がある。そのあたりがしっかりしていれば協議がぶれないと思うが、予算的なイメージがないと難しいものがあると思う。
- ・（委員長）建設場所・施設規模・予算額は議論の前提である。町長に適宜情報を共有して進める。
- ・（委員）館名に「郷土」は必要なのか、検討しても良いだろう。幸田町＝郷土であるし、本事業で目指すのは日本のどこに出しても誇ることができる幸田町の姿であると思うので、「郷土」という言葉にこだわらなくてもよいのではないかと感じている。
- ・（委員）新博物館は幸田町ゆかりの資料のみを扱うのか、検討する必要があるだろう。構想案の基本方針のフェーズ3には、文化財や優れた芸術作品等を他館から借用して展示するとあり、こういった活動を行うのかどうか明確にしておく必要がある。郷土に拘泥せず、町民に優れた歴史資料や芸術作品を紹介するという方向で行くのであれば、フェーズ3の後半ではなく、もっと前面に出す形で記載して良いのではないか。
- ・（事務局）いただいたご意見をふまえて検討し、第3回委員会に向けて修正等を進める。

2. （仮称）幸田町郷土博物館に期待される役割について

- ・（委員）「誇りを醸成する」という文言は、防災意識の醸成にとって重要。暮らす地域に誇りを感じているから、好きだから、そこを協力して守ろうとするのであり、それが防災意識につながる。したがってそれをめざすことはとても良いと思う。
- ・（委員）博物館と図書館の連携は重要である。できれば館長を一人にしても良いと思うくらい、連携は重要と感じている。うまく連携すれば効果的な資料の取り扱いが可能になり、来館者にとっても博物館のハードルが下がることにつながるのではないか。
- ・（委員）人とのつながりを形成するにあたって、ギャラリートーク等の対面コミュニケーションの機会は重要である。積極的にコミュニケーションの機会を設けると、学芸員にとっても来館者の意識や考え等が把握しやすくなり、勉強になる。「顔が見える学芸員」がいる施設になると良い。
- ・（委員）「幸田町の歴史・文化のハブ機能」のイメージ図において、町民会館・図書館・新博物館の3施設が連携し、それぞれがつながりあって機能するとして、3つの施設を円がつなぐような図にすると理解されやすいだろう。
- ・（委員長）「知の拠点」は使いたくなる文言だが、もう少し温かみのある言葉の方が良いと思う。文言表現の調整は今後詰めるとして、基本的な考え方は良いと思う。
- ・（委員）「知の水たまり」等はどうか。ろ過して、精製していく、つまり博物館からはじまり、図書館に行きつくイメージ。やわらかい表現の方が伝わりやすいと思う。

3. 事業活動における基本方針について

- ・（委員）基本方針に記載されている内容は、今後、設計のあらゆる場面でこれを考えていく必要がある。さらに重要なのは運営が始まってから、そして将来の職員もこれを行動の規範にしていくとよいと思う。これは現場にいる者として、まっさらなところから始まるプロジェクトに対しての提案である。
- ・（委員）書きぶりについて、町民が期待するものに応える施設であることが伝わるような表現を入れてはどうか。また、「行きたいと思わせる」という記述があるが「思わず行きたくなる」といった表現に変えた方が良いだろう。
- ・（委員）施設のキーワードはワクワクドキドキ。「あっ!」「え?」「へ〜?」「おっ!」「ん〜!」等の心を動かすような感嘆詞を展示室内にちりばめると、楽しい博物館になると思う。
- ・（委員）それらの感嘆詞は学校教育現場でも使う。小中学生にとってもなじみやすいだろう。
- ・（委員）「利用者にとっての四つの発展的フェーズ」において、子どもたちに問題意識や課題意識を持ってほしい。来館時に持った問題意識を「宿題」として持ち帰り、学校で勉強、再度来館して「答え合わせ」をするように、問題意識を起点として博物館を何度も利用するよう促せると良いのでは

ないか。博物館で知的な楽しみを感じてもらいたい。

4. 施設整備の方向性について

- ・（委員）「想定される主な機能と諸室」が記載されているが、運用を念頭に検討する必要がある。例えば、図録やポスター、使用していない什器の置き場、一時保管庫に入れる前の保管場所等。記載されている諸室機能の「前」に使われるスペースが相当必要となる。これは設計に入る時から考えておく必要がある。
- ・（委員）施設は免震構造にすべきだろう。通常考えられる程度の大きな地震が起きた際、免震は非常に有効である。展示室においても、全体が揺れにくくなるので個々の展示物の揺れ対策を懸念する必要が薄まり、楽である。
- ・（委員）免震構造の MieMu（三重県総合博物館）は、小規模な展示物であれば設置時にテグス張りをしない聞いた。手間がなく、相当楽だろう。
- ・（委員）ここは地盤が割合に良い。良好な地盤の上に免震構造で建築するのは非常に効果的である。予算や建築面積範囲等の課題は生じるが、効果は大きい。
- ・（委員）町内の大きな小学校は1学年150~160名である。学校の規模によって様々だと思うが、それくらいの児童生徒が来館した際の運用を念頭に検討いただきたい。例えば、150本分の傘入れ、トイレ、大型バス用の駐車スペース等。昼を跨いでの見学は考えにくいので、食事場所は問題ないだろう。
- ・（委員長）バリアフリーは必須事項かと思う。追加いただきたい。

5. 展示構想について

- ・（委員）常設展の展示替えをどうするか、よく考える必要がある。知ること、学ぶことは複製等でも可能であるが、やはり資料（本物）と対面することには重みがある。複製等をうまく使うこと、そして実物については、一度見た人のために資料を入れ替えてどのように見せていくか。これらのことを運営において考えていく必要がある。展示に限らず、教育普及で行う体験も「リアル」である。本物、リアルの重要性をしっかりと考えていく必要があるだろう。
- ・（委員）地震に関する展示について。町史等では自然や災害の項目の一部として紹介されることが多い。特に、防災に関連づけるとつまらなくなるのでやめた方がよい。地震は地球の営み。その中で人間がどのような対応をしてきたかということである。テーマに「地、時、絆」とあるが、地震はこれらすべてに関わるものである。それが見えるような展示にしないといけない。それぞれに分けてしまうと、復興も含めて本当の地震について理解することはできない。幸田町は三河地震に関する貴重な資料が多く残っている。三河地震は戦時中に起きたにも関わらず驚異的なスピードで復興した。こういった「絆」も含めてぜひ紹介してほしい。断層の町歩き動画を再生するのも効果的かもしれない。展示の題名は「三河地震」が良いが、一体としてわかる展示をしてほしい。
- ・（委員長）三河地震は、博物館の大事な特色になるかもしれない。
- ・（委員）天然記念物だけでなく、町歩きをしながらの発見もあると思う。うまく展開できれば博物館と深溝断層が離れているという課題をクリアできる可能性があるのではないかな。

1. 施設構想について

- ・（事務局）資料および模型の説明
- ・（委員）A案は調整池に隣接しており、搬出入が難しい形状である等、敷地の制約が大きい。現実的ではないだろう。
- ・（委員）調整池を駐車場にする事例は多い。
- ・（委員）調整池部分は「ハピネス・ヒル・幸田周辺地区計画」で「公園・緑地」とされているため、駐車場に変えるためには地区計画を変更する必要がある。県との協議等に時間がかかるだろう。

(事務局)

- ・ D 案、E 案は町民に憩いの場として親しまれている空間をつぶしてしまう。町民からの反対が大きいと予想される。
- ・ (委員長) 代替駐車場の確保を念頭に置きつつ、「思索の森」と図書館の間に建設する方針で検討していく。よろしいか。
- ・ (委員一同) 良い。

II. 閉会挨拶

- ・ (教育長) 本委員会は、博物館設置を具体的に進めるため、専門的な観点からご意見をいただける良い機会であり、非常にありがたく思っている。先月、史跡島原藩主深溝松平家墓所の史跡指定 10 周年を記念したイベントにおいて、町長が博物館の必要性を訴え、参加者から好反応をいただいた。町にとって新博物館の建設は一大プロジェクトであり、町民・議会の理解を得る必要がある。うまく調整しつつ実現に向けて進めていきたい。